



# 2009 CIK-FIA ワールドカップ カートレース IN JAPAN

2009 CIK-FIA WORLD CUP KART RACE IN JAPAN

鈴鹿サーキット 国際南コース 1.264km

2009年5月

22日(金)・23日(土)・24日(日) ファイナル

- 開催クラス : CIK-FIA WORLD CUP FOR SUPER KF & KF1 / CIK-FIA ASIA-PACIFIC KF2 CHAMPIONSHIP
- 同日開催 : FP-Jr
- オーガナイザー : 鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- プロモーター : 株式会社 モビリティランド
- 公認 : 国際カート委員会 (CIK) / 国際自動車連盟 (FIA) / 社団法人 日本自動車連盟 (JAF)
- 後援 : 鈴鹿市 / 鈴鹿商工会議所 / 鈴鹿市観光協会 / 鈴鹿モータースポーツ市民の会 / カートメーカーインポーター協会 (KMIA) / 日本カートランド協会 (JKLA) / 日本選手権オーガナイザー会 (JKOA) / 一般社団法人SLカートのスポーツ機構 (SLO)

**フェルナンド・アロンソに続いてルイス・ハミルトンもF1チャンピオン獲得！**  
**ワールドカップ カートレースを制することが、頂点へのスタート。**  
**今年も彼らに続く精鋭たちが鈴鹿サーキット国際南コースに結集！！**



昨年F1世界選手権でマクラーレン・メルセデスを駆って見事チャンピオンを獲得したルイス・ハミルトン。05年に王者ミハエル・シューマッハと激しい戦いを展開した末にチャンピオンを獲得。翌06年もチャンピオンとなったフェルナンド・アロンソ。かれらF1の新しい王者には大きな共通点があった。ともにCIK-FIAワールドカップ カートレースで、F1への第一歩をスタートさせたことだ。



フェルナンド・アロンソ

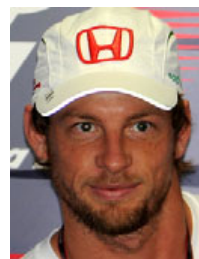
ルイス・ハミルトン

アロンソは1998年に出場。この年は豪雨に見舞われ決勝レースは中止となったが、予選ヒートでトップを獲得するなど、速さの片鱗を見つけた。一方ハミルトンは舞台をツインリンクもてぎに移して行われた2000年に見事優勝。そのまま頂点への階段を駆け上ったのだ。

他にもワールドカップ カートレースは数々のF1ドライバーを輩出してきた。94年、95年と2年連続優勝を飾ったヤルノ・トゥルーリは今季もトヨタのエースとしてF1に参戦。今季ブラウンGPチームから参戦のジェンソン・バトンも96年FAクラス3位表彰台を獲得。ウィリアムズチームのニコ・ロズベルグも2000年(もてぎ)に参戦して活躍している。やはりワールドカップカートレースはF1を目指す者にとって重要なレースなのだ。今年も日本はもちろんのこと、世界中から精鋭たちが結集する。



ヤルノ・トゥルーリ



ジェンソン・バトン



ニコ・ロズベルグ

## 2年連続フォーミュラ・ニッポンのタイトルを獲得した松田次生、元F1ドライバー山本左近も、新鋭伊沢拓也もワールドカップ カートレースからステップアップ

これまでワールドカップ カートを経験してステップアップした選手は数多くいる。ワールドカップ カートレース初開催となった1991年に活躍したのが、今季もF1 フォース・インディアチームから参戦するベテランジャンカルロ・フィジケラ。マクラーレン・メルセデス



ジャンカルロ・フィジケラ



ヘイキ・コバライネン



ロバート・クビサ



山本左近

チームから2年目の参戦を迎えるヘイキ・コバライネンと昨年F1初優勝を飾ったBMWザウバーのロバート・クビサはともに00年に参戦した。またスーパーアグリチームやスパイカーからF1参戦の経験を持つ山本左近も99年、00年に参戦。

国内に目を向けると昨年フォーミュラ・ニッポン史上初の2年連続チャンピオンの偉業を達成した松田次生が97年、98年に参戦しているのを始め、03年から4年間アメリカ、インディカーシリーズで活躍した松浦孝亮は97年FAクラスに参戦して見事優勝を飾っている。他にも昨年フォーミュラ・ニッポン、SUPER GT参戦を果たした新鋭の伊沢拓也、長年

国内トップに君臨している本山哲（93年参戦）もワールドカップ カートレースを経験してその後のステップアップに勢いをつけた。海外からの精鋭はもちろんだが、日本国内の若手選手の走りからも目が離せないものとなりそうだ。



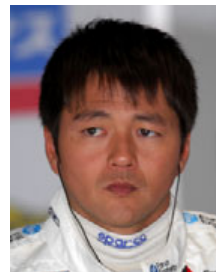
松田次生



松浦孝亮



伊沢拓也



本山哲

## 驚異のハイスピードで繰り広げられる世界最高峰の戦い、それがワールドカップ カートレース IN JAPANだ！

現在F1を始め、国内最高峰のフォーミュラ・ニッポンなどのトップカテゴリーに参戦しているドライバーの多くが、レーシングカートからそのレースキャリアをスタートさせている。現在世界各国で様々な選手権シリーズが開催され、国内でもカートレース IN SUZUKAシリーズから、国内トップ選手が競う日本選手権までが開催されているが、それらの上に位置するのがアジア・パシフィック選手権、ヨーロッパ選手権、そして頂点が世界選手権となる。CIK-FIAワールドカップ カートレースは、この世界選手権と並ぶ格式を誇る世界最高峰レースで、1991年に初開催。99年まで鈴鹿サーキット国際南コースで、2000年はツインリンクもてぎで開催。そして06年、国際南コースで6年ぶりに復活し、世界から結集した精鋭たちが熱戦を繰り広げたのだ。

今年も同様の戦いが繰り広げられるのは確実だが、2007からのレギュレーション変更がそれをさらにハイレベルにしている。これまでのFAクラスがKF1クラスとなり、エンジン排気量は100ccから125ccへとアップ。エンジン回転数は16,000回転に制限されるものの、その性能は驚くほどアップした。さらに、今年はKF1クラスをよりチューニングしたSuper KFクラスも日本初登場となる。極限までチューニングを施されたSuper KFクラスの異次元の走りに期待が高まる。また、併催クラスのアジア・パシフィック選手権ICAクラスも2007年にKF2クラスへと変更。エンジン排気量はKF1クラスと同じ125cc。エンジン回転数は15,000回転に制限されるものの、ハイパフォーマンスを示している。Super KFクラスでの戦いは初年度、KF1、KF2での戦いは3年目。今年はこれまで以上にハイスピード、ハイレベルな戦いが展開されるだろう。

ゆうえんち入園料でご覧いただけます。（※各日とも1日のみ有効）

料金(ゆうえんち入園料)		
大人 (中学生以上)	子供 (小学生)	幼児 (3歳～未就学児)
1,600円	800円	600円

お車で越しの方は、ゆうえんち駐車場に駐車いただき、無料シャトルバスをご利用ください。

【無料シャトルバス】

■運行区間：正面ゲート⇄国際南コース

■運行日程：5月23日(土)・24日(日)

## WORLD CUP KART RACE IN JAPAN リザルト(トップ3)

年	コース	クラス	優勝	2位	3位
1991年	鈴鹿サーキット国際南コース	FK	D・クレバレス	D・ロッシ	李 好彦
		FA	D・スミス	金子 雄一	D・アンドレ
1992年	鈴鹿サーキット国際南コース	FK	D・ロッシ	M・リタプリス	C・ヘルベルグ
		FA	A・フェデモンテ	A・ベリッキ	道上 龍
1993年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	N・ジャンニベルディ	G・フィケラ	J・トゥルーリ
		FA	P・モロ	L・コーシオ	大脇 照男
1994年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	J・トゥルーリ	A・マネッティ	N・マツジョ
		FA	L・カサーザ	D・フォレ	J・デグートゥ
1995年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	J・トゥルーリ	松谷 隆郎	津田 浩次
		FA	D・ウェルドン	佐藤 雅洋	F・G・フラガス
1996年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	M・オルシニ	C・バリストレリ	G・ベツジョ
		FA	M・パプロビック	G・パンターノ	J・バトン
1997年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	佐野 和志	G・ベツジョ	李 好彦
		FA	松浦 孝亮	J・コートニー	R・アンティヌッチ
1998年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	松谷 隆郎	G・パンターノ	C・バリストレリ
		FA	※豪雨のため決勝レース中止		
1999年	鈴鹿サーキット国際南コース	FSA	V・リウツィ	E・ガンドルフィ	佐野 和志
		FA	J・ボンシェ	A・ドス・サントス	F・ペレラ
2000年	ツインリンクもてぎ 北ショートコース	FSA	D・フォレ	V・リウツィ	C・バリストレリ
		FA	L・ハミルトン	C・ピッチオーネ	C・ブラウン
2006年	鈴鹿サーキット国際南コース	FA	A・コズリンスキー	J・ピアンキ	R・クリストッポール
2007年	鈴鹿サーキット国際南コース	KF1	M・アーディゴ	服部 竜也	G・キャッツ
2008年	鈴鹿サーキット国際南コース	KF1	D・フォレ	L・トマン	S・チェセッティ